小学校・第５学年・外国語科・I want to go to Italy.①

熊本県提供

育成を目指す資質・能力

〇国名や行きたい場所について、聞いたり言ったりすることができる。また、それらを書き写すことができる。
〇行きたい国や地域について理由も含めて伝え合う。
〇他者に配慮しながら、行きたい国等について説明したり、自分の考えを整理して伝え合ったりしようとする。

ICT活用のポイント

〇ICT端末を活用し、個別に既習語句や表現を繰り返し聞くことにより、自己のペースで学習を進めることができる。
〇遠隔交流校の児童とICT端末を活用したやり取りや発表を行うことで、言語活動の充実を図ることができる。

事例の概要

① 導　入
Small Talk

② 発話練習

③ 言語活動

まとめ

本校（A校）は小規模校であり、コミュニケーションを図る相手が限られる。より対話的な学びを実現するために、単元終末の言語活動において、ウェブ会議ソフトを活用し、交流校同士の遠隔協働学習を実施した。

〇対象学級　A校（本校）：児童３人、 B校（交流校）：児童12人
〇単元のゴール
「旅行会社の社員になりきって、おすすめの国を紹介したり行きたい国を伝えたりしよう。」
〇ICT端末の主な活用場面（①～③）
①【導入・Small Talk】
「日本のおすすめの地域」をテーマにした学級担任とALTのデモンストレーションを視聴した後、オンラインでB校の児童と１対１のSmall Talkを複数回実施。
②【発話練習】
デジタル教科書の絵辞書やALTが作成したオリジナル動画を個人のICT端末で視聴し、既習語句や表現を自己の課題に応じて個別に練習。
③【言語活動】
ICT端末を使用し、自作のパンフレット等を示しながら、交流校の児童に向けて、自分の「おすすめの国」を紹介。
大型スクリーンを使用し、ウェブ会議ソフトで交流校の児童の「おすすめの国」の発表を視聴。

小学校・第５学年・外国語科・I want to go to Italy.②

【事例におけるICT活用の場面①】

【事例におけるICT活用の場面②】

【事例におけるICT活用の場面③】

①Small Talk

遠隔による１対１のやり取りを相手を替えて複数回実施。題材を前時に学級内の友達同士で扱ったもの（日本のおすすめの地域）にすることで、初対面の相手とも意欲的にやり取りすることができた。

②発話練習

本時の言語活動で使用する基本表現については、ALTがオリジナル動画を作成し、ファイル共有機能を用いて、ICT端末で個別に視聴させた。それにより、自己の課題に応じた練習を行うことができた。

③言語活動

「おすすめの国」を発表し合い、聞き手側には「行きたい国」を選ぶという目的意識を持たせた。そのことにより、児童は画面越しの相手にも、より分かりやすく伝わるように相手に配慮した発表を行った。

〇ICT活用の留意点

ICT端末を効果的に活用するためには、その活用場面や目的を明確にするとともに、それに要する時間などを綿密に計画する必要がある。それに伴い、授業の計画段階で活動内容全体が精選され、目標達成に向けた効果的な指導につながった。

【活用したソフトや機能】 プレゼンテーションソフト、ウェブ会議ソフト、ファイル共有機能

小学校・第５学年・体育科・ボール運動　ゴール型（タグラグビー）①

北海道提供

育成を目指す資質・能力

○運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすること。【知識及び技能】
○ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。【思考力、判断力、表現力等】
○運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。【学びに向かう力、人間性等】

ICT活用のポイント

課題解決に向けて、自己や仲間が直面する課題を比較、分類・整理、蓄積する。

課題発見
↓
課題追究
↓
解決過程の振り返り
↓
課題解決

事例の概要

【課題発見】 試しのゲーム
- ○ 自己の技能（ボール操作、ボールを持たないときの動き）の確認
- ○ 自己やチームの動きを撮影し、手本の動きと比較
- ○ チーム課題の確認

【課題追究】
- ○ 課題に応じた作戦の選択・実行

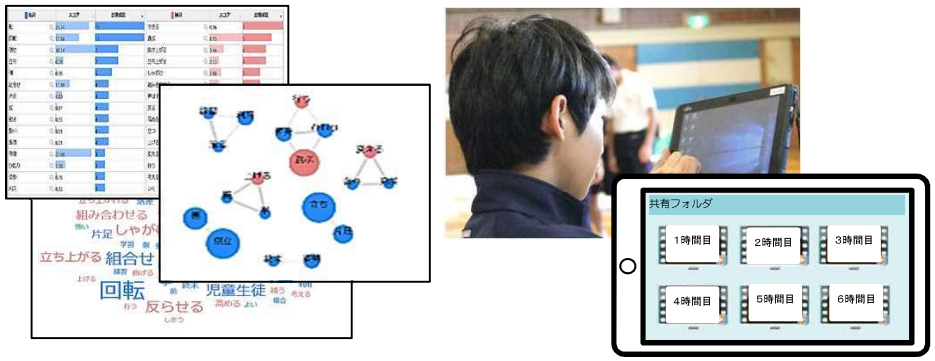
【解決過程の振り返り】
- ○ 蓄積した動画等を確認し、解決過程の振り返り
- ○ 分類・整理したデータを基に自己やチームの変容の実感

【課題解決】 ゲームの実施

小学校・第５学年・体育科・ボール運動　ゴール型（タグラグビー）②

【ICT活用の場面①】 比較

【ICT活用の場面②】 分類・整理、蓄積



テキストマイニング※による分類・整理

共有フォルダでデータを蓄積

（画像は他の単元のもの）

※「テキストマイニング」とは、大量の文章データの中から有益な情報を取り出すことを指します。文章を単語に分割し、出現頻度や相関係数等の特徴を抽出することができるデータ分析の方法の一つです。自己評価や振り返りシートなどをテキストマイニングを用いて分析することで、記述内容の全体の傾向を知ることができたり、特徴を発見したりすることができます。

【場面①におけるICT端末を活用するメリット及びポイント】

○　自己やチームの動きを動画で撮影し、手本となる動画と比較することで課題を明確にする。

○　２つの動きを2画面で比較したり、重ねて観たりすることで、自己やチームの課題を見付けることができる 。

○　動画を繰り返し視聴したり、スローモーションで観たりすることで、技能のコツや動きのポイント等、視点を絞って話し合うことができる 。

○　単元の最初と最後に撮影した個人やチームの動きの動画を比較することで、単元を通して身に付けた力に気付き、自己やチームの動きの変容を実感することができる。

【場面②におけるICT端末を活用するメリット及びポイント】

○　毎時間ゲームの動画を撮影して、共有フォルダに保存することで、各児童が単元全体を通した解決過程を振り返ることができる。

○　集積した各児童の自己評価シートの記述内容をテキストマイニングを用いて分析し、学級全体や同じチームの児童の思考を可視化して分類・整理することで、児童は他者との考えの共通点や相違点などに気付くことができる。また、教師は児童の考えの変容を把握し指導に生かすことができる。

【活用したソフトや機能】

写真撮影・動画撮影機能　　動画再生機能

テキストマイニングソフト（ウェブブラウザ）　ファイル共有機能

小学校・第5学年・家庭科・題材名「めざせ！いきいき食生活」
内容「B衣食住の生活」(１)ア，(３)ア(ア)(イ)(ウ)②

題材のねらい

栄養を考えた食事ついて，課題をもって，健康な体を保つために必要な栄養素の種類とその主な働き，食品の栄養的な特徴及び１食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，いろいろな料理や食品を組み合わせてとる必要性について理解することができる。

生活の課題発見
↓
解決方法の検討と計画
↓
課題解決に向けた実践活動
↓
実践活動の評価・改善
↓
家庭・地域での実践

ICT活用のポイント

- ICT端末を活用し，「栄養を考えた食事」について，料理や食品を組み合わせを試行錯誤しながら，栄養のバランスのよい食事について考えることができるようにする。
- 全体で献立の交流の場面において，全体で情報を共有することで，各自の思考の過程を視覚化しやすくする。

事例の概要

- 題材における学習課題は「健康を保ち，体を成長させたり，活動したりできる１食分の食事を考えられるようになろう」である。
- 栄養のバランスのよい１食分の食事となるように，学校給食のメニューを基にごはんとみそ汁に合わせる主菜と副菜を選択して献立を考え，その工夫を学び合う。

小学校・第5学年・家庭科・題材名「めざせ！いきいき食生活」
内容「B衣食住の生活」(１)ア，(３)ア(ア)(イ)(ウ)②

【自分のペースでの試行錯誤】

【ICTを活用するメリット】
・主菜・副菜となる学校給食の写真をクラウド上に保存しておくことで，児童が試行錯誤できる。

（前）

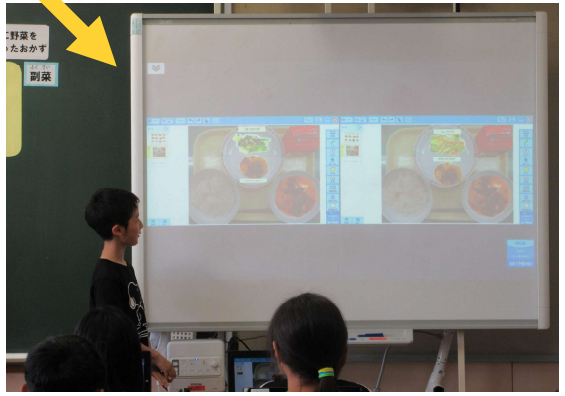
（後）

【ICTを活用するメリット】
・各自が考えた献立画像を保存し，それを共有することで，友達と比較しながら互いの考えの根拠や工夫を認め合うとともに，献立の改善に生かすことができる。

【記録を基にペアでの考えの交流】

【ICTを活用するメリット】
・各自が改善した献立をクラウド上に保存しクラス全体で共有することで，考えを深めることができる。
・大型提示装置を活用し，拡大や焦点化することによって，効果的なプレゼンテーションをすることができる。
・児童一人一人の手元でもその様子を確認することができる。

【改善記録を基に，全体での交流】



【活用したソフトや機能】

写真・動画撮影機能，プレゼンテーションソフトのファイル共有機能

小学校・第５学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」
内容項目：Ａ 正直、誠実①

一般的な学習指導過程

導入
- 問題意識をもつ
- 教材を知る

展開
- 自分の考えをもつ
- 他者の考えを知る
- 他者と話し合う
- 自己の生き方についての考えを深める

終末
- 自分の思いや考えを確認する

授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

活動のねらい

話合いを通して自分の考えの変容を示し、学級全体に伝えることで、聞いている友達がそれぞれに自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の最初の考えとその後の考えを数直線上に示し、一人の変容した気持ちや考えを共有することによって、他者が参考にすることができる。

事例の概要

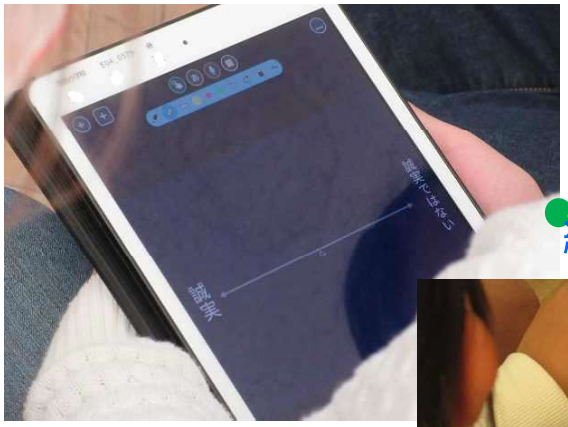
本授業では、教材の登場人物の行為に対して誠実だと思うか、思わないか、自分の考えを数直線上に示す。その後、話合いを通して変容した気持ちや考えを同じ数直線上に示し、その変化を発表することで、聞いている友達が自分と比較しながら視野を広げて考えることができる。

小学校・第５学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

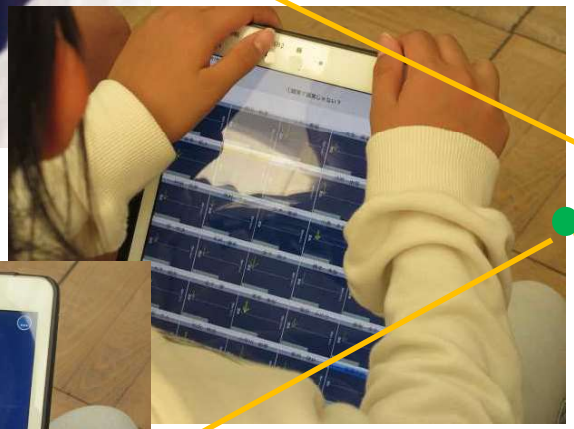
内容項目：Ａ 正直、誠実②

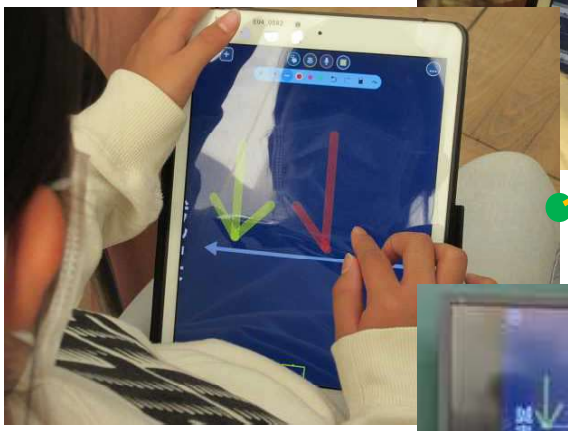
～プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能を活用して、考えを表現・共有～

【共有して他者の考えを知る】



【デジタルスライドの数直線に自分の考えを示す】





【変容した考えを矢印で示し、発表する】

【学習の目的】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提として、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが求められる。このように物事を多面的・多角的に考える学習を通して、自分の考えを深め、判断し、表現する力などを育む。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

教師が事前に作成したデジタルスライドの数直線を児童のＩＣＴ端末に送り、児童は、数直線上に自分の考えの傾向を矢印で示す。その後、学習支援ソフトのファイル共有機能を使って学級全体でデジタルスライドを共有し、話合いの後にもう一度同じ直線上に矢印を示す。教師は児童を意図的に指名をしてその変容した考えの根拠を発表してもらう。

【ICT活用のメリット】

・共有された友達の考えを視覚的に知ることができ、自分の考えと比較することができる。

・変容した児童の考えが視覚的に捉えやすく、教師は全児童の考えをその場にいながらＩＣＴ端末で把握でき、意図的に指名をして、広く深く考えていくことができる。

○ 活用したソフトや機能：プレゼンテーションソフト、学習支援ソフトのファイル共有機能

小学校・第５学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」
内容項目：Ａ 正直、誠実①

一般的な学習指導過程

導入
- 問題意識をもつ

展開
- 教材を知る
- 自分の考えをもつ
- 他者の考えを知る
- 他者と話し合う
- 自己の生き方についての考えを深める

終末
- 自分の思いや考えを確認する

授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

活動のねらい

他者と話し合った後、授業を振り返りながら自分の考えをまとめる段階で、他者の考えも参考にしながら自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の考えをＩＣＴ端末に打ち込み、共有することによって他者の考えも知ることができる。また、教師も全児童の考えを見渡すことができ、意図的に指名して学級の全児童に紹介することができる。

事例の概要

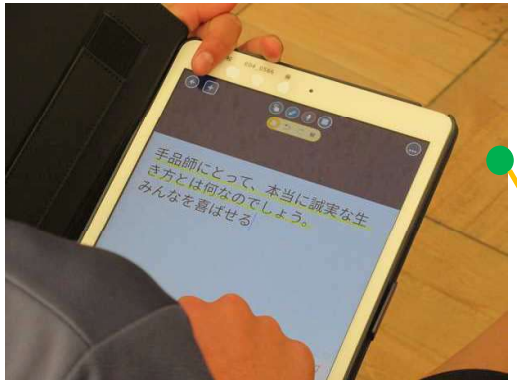
一人一人の児童が、ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題を見つけることができる。また、教師は、全児童の考えが把握しやすく、意図的指名に生かすことができる。

小学校・第５学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

内容項目：Ａ 正直、誠実②

～学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフトを活用して、考えを共有・記録～

【ICT端末に自分の考えを打ち込む】



【意図的に指名をして紹介する】

【学習の目的】

道徳科では、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることが大切である。そこで、本時に行われた道徳科の授業を一人一人の児童がしっかりと振り返りながら、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

一人一人の児童がじっくりと、本時の授業を振り返りながら、自己の生き方についての考えを深め文字を打ち込んでいく。一人一人の児童がＩＣＴ端末に打ち込んだ考えについて教師は、共有したり、意図的に共有しなかったりする。なかなか考えがまとまらない児童への対応として、一定時間を見計らって全児童の考えを共有する。教師は、全児童の内容をＩＣＴ端末で確認しながら、個別に対応する。

【ICT活用のメリット】

・共有された友達の考えを知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができる。

・教師は全児童の考えをその場にいながらＩＣＴ端末で把握することができ、意図的に指名をして、特定の児童の考えを他の児童に紹介することができる。

・このように毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる評価の資料として活用することができる。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト

小学校・第６学年・国語科
文章全体の構成や書き表し方に着目して、意見文を整えよう①

単元において育成を目指す資質・能力

茨城県提供

○ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕 (1)カ
○ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ(1)オ
○ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

ICT活用のポイント

○ 個人・グループにおいて推敲した文章をICT端末で撮影、モニターに投影し、学習支援ソフトを用いて全体で比較・検討、確認することで、考えたことを表現・共有する場面において活用することができる。

本時における学習の流れ

1 学習課題と例文を確認する。

2 グループで例文を推敲する。

3 推敲した内容を学習支援ソフトで全体で共有する。

4 本時の学習を振り返る。

事例の概要

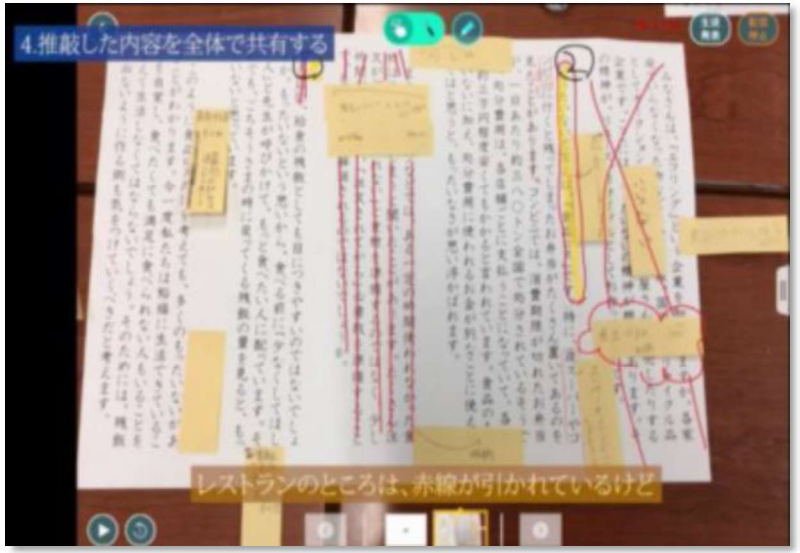
【学習課題】
相手に主張を分かりやすく伝えるためには、文章全体をどのように推敲したらよいだろうか。

【概要】
観点（①主張を支える事例（根拠）を挙げているか、②事例（根拠）を示す順序は適切か、③テーマについて事実と考え・感想を区別して主張しているか）に基づいて推敲した意見文を記録し、全体で共有する。

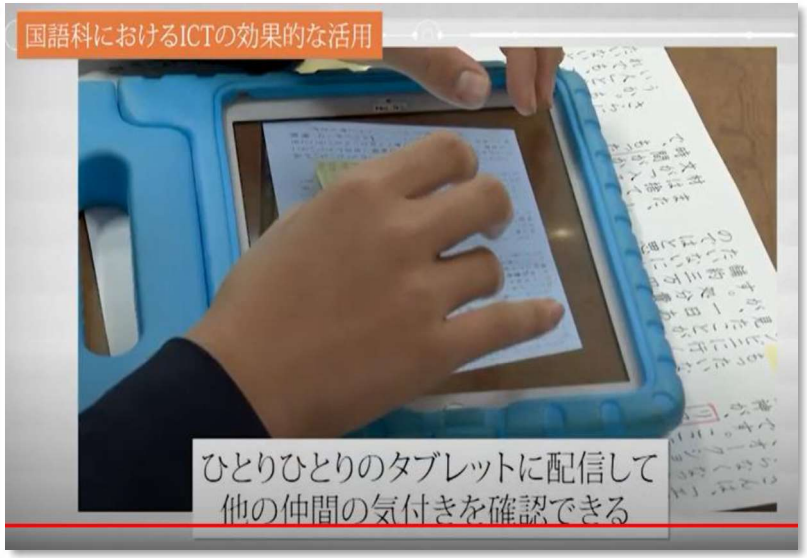
本時の後、児童が自分で書いた意見文について推敲する学習を行う。

小学校・第６学年・国語科
文章全体の構成や書き表し方に着目して、意見文を整えよう②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



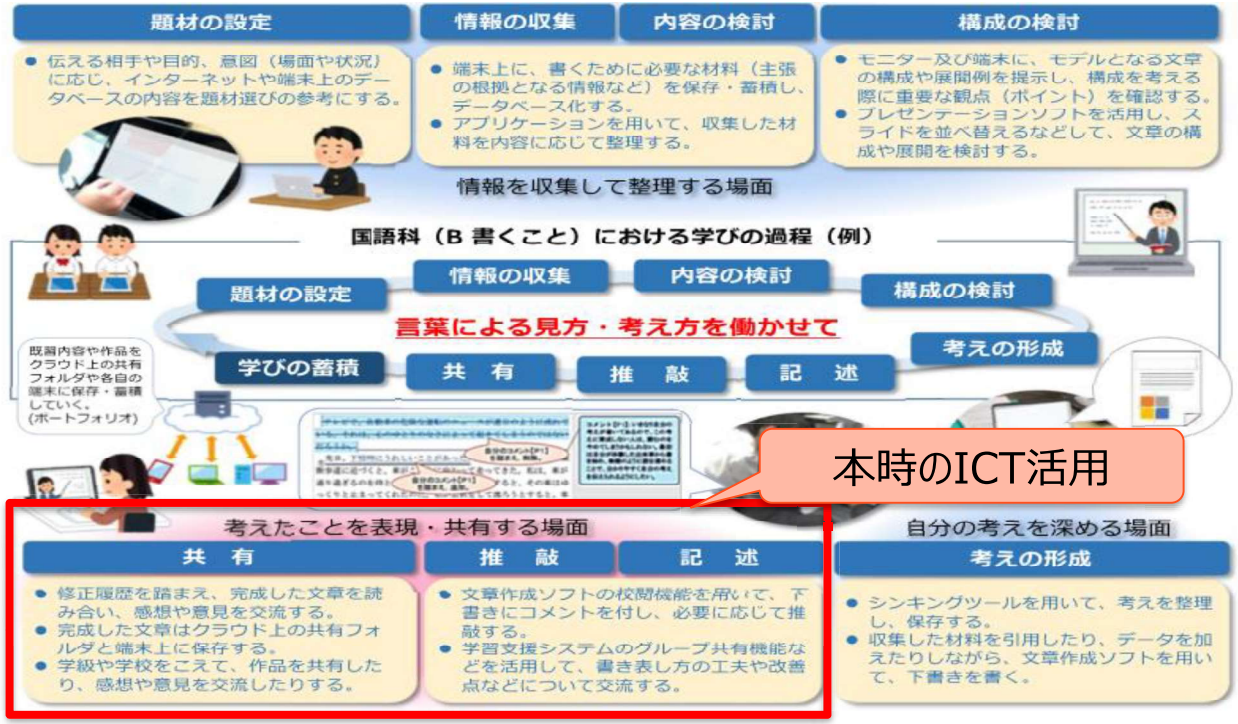
【本時におけるICTを効果的に活用するためのポイント】

① 学級の児童全体で推敲した文章を共有するために、教師が作成した「例文シート」に付箋を貼ったり赤鉛筆で訂正を加えたりした画像データを学習支援ソフトで各グループが提出。モニター及び手元のICT端末で全グループのプリントを確認できるようにした。

② 自分では気付くことのできなかった推敲の内容を共有するために、教師用のICT端末から児童用のICT端末に再度画像データを配信し、他グループの「例文シート」を参考にして、自力で推敲できるようにした。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト（画面共有、画像の編集など）

【国語科における子供たちの学びの姿のイメージ（例）】



小学校６年・外国語科・This is my town.(3)話すこと[発表]ウ①

静岡市提供

育成を目指す資質・能力

静岡市に初めて来た外国からの観光客に、静岡市に来てよかったと思ってもらえるように、情報を整理し、地域のよさや自分の考え、気持ちなどを含めて、静岡市の魅力を英語で話すことができる。

ICT活用のポイント

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況を「静岡市に初めて来たALTに、静岡市に来てよかったと思ってもらえるよう、静岡市の魅力を英語で伝える」と設定し、児童が自分の発表を見直したり、友達の発表を見て参考にしたりするためにICT端末（カメラ機能、学習支援ソフト等）を活用する。

・児童が自らの学びを振り返り、自分の学びに生かすことができるように、ICT端末（表計算ソフト等）を活用する。

指導者によるSmall Talkや指導者とのやり取りから、本単元のゴールを理解し、単元の見通しをもつ。

ALTやGETのSmall Talkから、施設名や静岡市の特色、町の様子やその伝え方を知り、慣れ親しむ。

自分たちの考えた静岡市の魅力を英語で伝え合い、友達の発表を視聴することで、自分の発表をよりよくしていく。

板書や教材を参考に写真の説明（施設名、できることなど）を英語で書き写し、パンフレットを見せながらALTに伝える。

事例の概要

〇学習支援ソフトのファイル共有機能を使い、プレゼンテーションソフト（動画を貼り付けるためのデータ）を配布する。

〇カメラ機能を活用し、各児童はプレ発表動画を撮影する。また、課題として配布されたプレゼンテーションソフトに動画を貼り付け、それらのファイルを共有し、互いの発表を視聴し合う。互いのよい点や課題点を交流し、次への目標を立てる。

〇立てた目標のもと、再度カメラ機能を使い、発表の様子を撮影し、プレゼンテーションソフトに貼り付け、教師に提出する。

〇アンケート機能や表計算ソフトを使って、児童は振り返りを行い、学習支援ソフトを用いて、教師に提出する。教師は、児童の振り返りを表計算ソフトを用いて一覧にし、学級で共有する。そうすることで、児童の学習改善に役立てたり、データの蓄積を行ったりすることができる。

小学校６年・外国語科・This is my town.(3)話すこと[発表]ウ②

【事例におけるICT活用の場面①】

カメラ機能で自分の発表を撮影
→自分の発表の様子を客観的に見る機会を設定

【事例におけるICT活用の場面⑤】

表計算ソフト、アンケート機能に「振り返り」を記録、提出
→学習改善・学びの蓄積

①ICT端末のカメラ機能を活用し、児童一人一人が自分の発表を撮影し、客観的に見る機会を設定することができる。
→複数児童が1台のICT端末を活用する場合より、時間短縮を図り、効率よく授業展開することが可能

②それぞれが撮影した動画をプレゼンテーションソフトに貼り付け、共有することで他の児童の発表の様子を視聴し、よい点や改善点を見付け、自分の発表に生かすことができる。
→各児童がそれぞれのICT端末を用いて、他の児童の動画を視聴することで、時間短縮を図り、効率よく授業展開が可能

③学習支援ソフトを使って提出された児童の動画を、学級で共有することで、静岡市の魅力を伝えるよいモデルを示すことができる。→情報の共有

④ICT端末で、再構成した自分の発表を隣の児童と共有し、その場で対面で意見交換をすることができる。
→画面越しのみならず、対面で意見交換する機会の設定により、児童が画面越しと対面でのやり取りの共通点や相違点に気付くとともに、両方のよさ、特色を実感。

⑤表計算ソフトに「振り返り」を記入することで、児童自身が継続的に蓄積されている自らの学びの過程を振り返り、その後の学習改善に生かすことができる。また、特定の内容をアンケート機能を用いて提出させた「振り返り」から自己調整の様子を読み取るとともに、その姿が授業で観察された粘り強い言語活動への取組として表れていたことを確認した上で、評価に生かすことができる。→学びの蓄積

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト、カメラ機能、プレゼンテーションソフト、ファイル共有機能、表計算ソフト、アンケート機能

小学校・第６学年・音楽科・手拍子を合わせて演奏しよう①

育成を目指す資質・能力

曲想と音楽の構造との関わりなどを理解するとともに，思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫することができるようにし，手拍子による合奏に親しむ。

ICT活用のポイント

- 自分に必要な機能を必要な場面で選択して使うことができるようにする。
- 学習の振り返りや成果の確認に生かすなど，学習のポートフォリオとして活用することも有効。

事例の概要

曲の特徴をつかむ

各パートを演奏する

演奏の仕方を工夫する

音を合わせて演奏する

- 楽譜を見ながら簡単なリズムを手で打つ。
- 手拍子のリズムを組み合わせた合奏曲を聴き，感じたことや聴き取ったことを話し合い，曲の特徴をつかむ。
- ICT端末で範奏を聴きながら，各パートを演奏する。
- 自分たちの演奏を録音・録画するなどしながら，表現の仕方を工夫する。
- 友達と手拍子を合わせて合奏し，ICT端末で撮影した演奏動画をクラス全体で鑑賞し合う。
- プレゼンテーションソフトに自分たちの演奏データを貼り付け，学習の振り返りを入力する。

小学校・第６学年・音楽科・手拍子を合わせて演奏しよう②

【事例におけるICT活用の場面　１】

- 範奏の音源に合わせて簡単なリズムを手で打つ。
- 各パートの範奏音源を聴きながら模奏する。
- 適宜，他のパートの音源を聴きながら演奏したり，速度を変えながら演奏したりする。
- 自分たちの演奏を録音して確かめたり，録画機能を活用して音色や強弱等について表現の仕方を工夫する。

✓ 一人一人の必要に応じて範奏を聴いたり，自分たちの演奏を客観的に確認したりすることなどができるという利点がある。

➢ 自分たちのペースや課題に合わせて，必要な場面で，必要な機能を選択して使うことができるよう指導を工夫。

【事例におけるICT活用の場面　２】

- 友達と合わせて合奏し，演奏している動画を撮影する。
- プレゼンテーションソフトに自分たちの演奏動画を貼り付け，クラス全体で鑑賞し合う。
- 互いの動画にコメントを付けたり，学習の振り返りを入力したりする。

✓ 自分たちの演奏を客観的に確認したり，それを蓄積して学習の振り返りに活用したり，クラウドを活用して友達と共有したりすることができるという利点がある。

➢ 学習で記録した演奏等をポートフォリオとして保存し，それを学習の振り返りに活用し，学習の成果を確認する機会を設けることも有効。

【活用したソフトや機能】 録音・録画機能，ファイル共有機能

小学校・第６学年・体育科（運動領域）・ハードル走①

育成を目指す資質・能力

(1)知識及び技能
　次の運動の楽しさや喜びを味わい，その行い方を理解するとともに，その技能を身に付けること。
　イ　ハードル走では，ハードルをリズミカルに走り越えること。
(2)思考力，判断力，表現力等
　自己の能力に適した課題の解決の仕方，競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
(3)学びに向かう力，人間性等
　運動に積極的に取り組み，約束を守り助け合って運動をしたり，勝敗を受け入れたり，仲間の考えや取組を認めたり，場や用具の安全に気を配ったりすること。

ICT活用のポイント

・ICT端末に，各自が記録を入力し，自己の変容を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
・各自が見付けた動きのポイントや仲間のよい動きを入力し，学習支援ソフトを活用することで協働的な学びを実現する。

事例の概要

学習課題の設定

↓

記録に挑戦

↓

記録の入力

↓

学習の振り返り

本事例は，個人の目標タイム（50m走の記録＋ハードルの台数×0.3）を設定し，その目標タイムを達成することを学習課題とする。

記録の入力では，児童は毎時間タイムを測定し，表計算ソフトを使用する。記録は折れ線グラフとして表示することで，自己の変容を視覚的に捉えることができるようにする。また，合わせて目標記録も表示をすることで，目標記録との差も視覚的に捉えることができるようする。

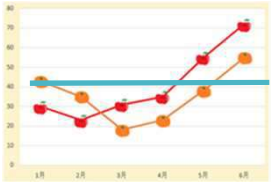
学習の振り返りでは，学級で共有しているデータに，各自が見付けた動きのポイントや仲間のよい動きを入力する。仲間が記入した内容を確認することで，自己の学習を振り返るとともに，次の時間のめあてにつなげる。

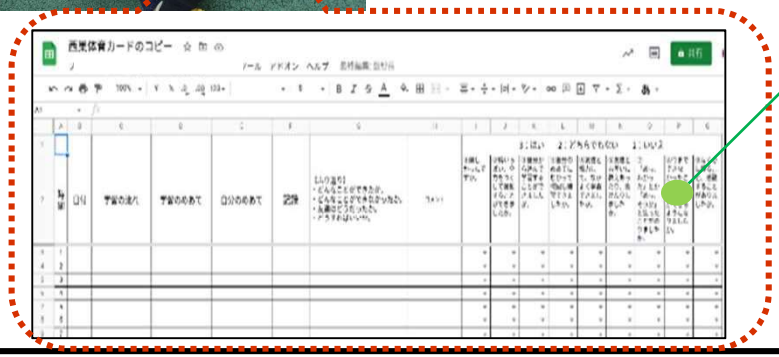
教師は，児童の活動の状況や思考の流れをデータ処理することで，本時の指導を振り返るとともに，次時以降の授業改善に生かす。

小学校・第６学年・体育科（運動領域）・ハードル走②

～自己の変容を視覚的に捉えるとともに，各自が見付けた動きのポイントを共有したり，仲間のよい動きを伝えたりする。～

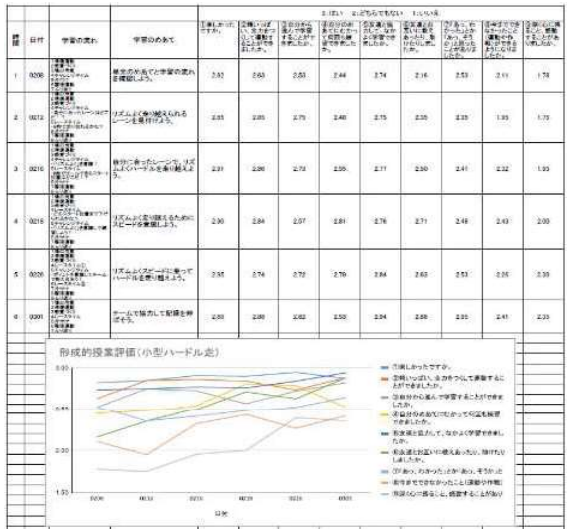
【事例におけるICT活用のポイント①】





【事例におけるICT活用のポイント②】

学級全体の平均が自動で集計され，グラフにも反映される。



【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

・記録を折れ線グラフとして表示することで，自己の変容を視覚的に捉えることができる。また，合わせて目標記録も表示をすることで，目標記録との差も視覚的に捉えることができる。
・個々の児童がデータを入力し，そのデータを一覧にすることで，各自が見付けた動きのポイントを共有したり，仲間のよい動きを伝えたりする。

【教師にとってのICT活用のメリット】

・短時間で効率的に，全時間の児童の活動や思考の流れを折れ線グラフ等を活用して把握することができる。
・個々の児童の学習状況を客観的・継続的に把握することができる。
・学校全体でデータを共有することで，今後，同じ単元の学習を指導する際の参考資料の一つとして活用することができる。

個々の児童に応じた，よりきめ細やかな指導・支援に生かすことができる

【活用したソフトや機能】

学習支援ソフト、表計算ソフト

小学校・第６学年・家庭科・題材名「まかせてね今日の食事～笑顔いっぱい杉っ子スマイル食堂～」

内容Ｂ（2）ア(ウ)(エ)、イ、（3）ア(ア)(イ)(ウ)、イ　内容C（1）ア(イ)、イ、（2）ア、イ　①

育成を目指す資質・能力

富山県提供

（１）材料に適した味の付け方、材料に適したゆで方、いため方、栄養素の種類と主な働き、食品の栄養的な特徴、料理や食品を組み合わせて取る必要性、献立を構成する要素、１食分の献立の立て方、物の選び方、買い方、環境に配慮した調理の仕方等について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。（知識及び技能）

（２）１食分の献立の栄養のバランスや買物の仕方、環境に配慮した調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。（思考力、判断力、表現力等）

（３）家族の一員として、生活をよりよく工夫しようと、栄養のバランスを考えた食事や買物、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

ICT活用のポイント

献立を見直す個別学習の場においてICT機器を使うことにより、材料等の加減や入れ換えを画面上でスムーズに行うことができ、献立を容易に修正できる。また、グループでの話合いにおいて友達の献立内容のよさや気付きを交流しやすくなり、１食分の献立をよりよく改善することができる。

【本時8/10時の流れ】

学習課題の確認

栄養教諭の話

個別の見直し活動【活用①】

グループでの交流【活用②】

学習の振り返り

事例の概要

★家族を笑顔にする１食分の献立を、さらによりよくするための改善を考える一時間である。

○個別の見直し活動　【活用①】
・児童は栄養教諭の話から、改善のポイント（主として栄養のバランス、その他旬の材料の活用、味のバランス、色どり）と操作の手順を理解し、献立を修正する。

○グループでの交流　【活用②】
・見直し前の献立（紙面印刷）と見直し中のICT端末の画面を比較し、よさや気付きを伝え合い、よりよい改善を図る。
・改善のポイント別に色分けした評価カード（付箋）を使って、相互評価する。

小学校・第６学年・家庭科・題材名「まかせてね今日の食事～笑顔いっぱい杉っ子スマイル食堂～」

内容Ｂ（2）ア(ウ)(エ)、イ、（3）ア(ア)(イ)(ウ)、イ　内容C（1）ア(イ)、イ、（2）ア、イ　②

【事例におけるICT活用の場面①】

【見直しポイントを基に、個別に献立を改善する場面】

・材料等の見直し（加減、変更）をする際に、ICT端末上で栄養素別に色分けされた材料カード等を移動することで、児童一人一人が献立の改善について試行錯誤できる。
・教師は前時の児童が考えた献立を把握し、実態を基にした「指導に生かす評価」（「努力を要する」状況（C)と判断される児童への手立てを考えるための評価）を行うことが可能であり、本時のねらいの達成に向けて、個に応じた指導を行うことにつなげることができる。

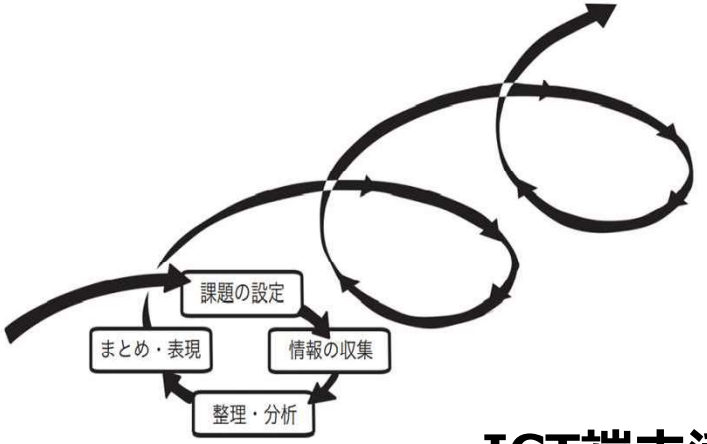
【事例におけるICT活用の場面②】

【グループで見直しを伝え合い、さらに改善を図る場面】

献立内容の見直し前の画面（印刷）とICT端末上の画面を比較し、見合うことで、献立内容の見直しの具体を容易に伝え合うことができる。また、具体に沿って互いにアドバイスをし合うことが可能になるので、友達の助言を取り入れ、その場で献立の改善を図りやすくなる。

【活用したソフト】学習支援ソフト（発表機能や共有機能を使用）

小学校・第６学年・総合的な学習の時間・「ふるさと弁当プロジェクト」①



ふるさと駅弁を作ろう。

駅弁を作るための情報を収集する。

試食の意見を分析する。

ふるさと駅弁をPRする。

活動のねらい

地域には、海・山・川の自然を生かして生産される特産品が存在し、それらを生かした町づくりが進められていることから、それらの食材を使って、「ふるさと駅弁」を作り、そのPR内容や方法を考え発信することで、地域の活性化に取り組もうとする。

ICT端末活用のポイント（まとめ・表現）

校内のみならず、国内外への多様な発信、手軽な制作と加工の繰り返し、成果物の継続的な蓄積が可能

例えば、プレゼンテーションやビデオレター、ウェブサイトによる発信、チャットボットを活用した案内アプリの作成など、情報を再構成し、自分自身の考えを幅広く伝えその効果を検証して、課題意識が連続発展していくことが考えられる。ICT端末で手軽に加工を繰り返したり、学習の成果物を継続的に集積したりしていくことも可能となる。

事例の概要

本事例は、ICT端末を活用してウェブページを作成することで、ふるさと駅弁のよさや価値をPRする。作成したウェブページについて、ウェブ会議ソフトを活用して市職員からアドバイスをもらうなどして、よりよいウェブページにしていく。また、駅弁を食べた感想を聞くことは、時間的な制約があることから、ICT端末のアンケート機能を活用する。これにより、ふるさと駅弁のよさや価値を発信することや、その手応えを把握することについて、場や時間の制約が軽減され、新たな学びが実現される。

小学校・第６学年・総合的な学習の時間・「ふるさと弁当プロジェクト」②

～ICT端末を使って、ふるさと駅弁のよさを発信するとともに手応えをつかむ～

【ウェブページの作成】

【ウェブ会議ソフトの活用】

【アンケート機能の活用】

【ICT端末の活用のメリット】

- ウェブページの作成により、同級生や地域の人々、他の学校の児童に情報を発信できる。目的に応じ、受け手の状況を踏まえた情報発信を行おうとする、情報発信者としての意識の高まりが期待できる。
- ウェブ会議ソフトを活用し、市観光課や広報課職員と話し合い、ふるさと駅弁を市のホームページで紹介するための手順や決まり事を聞いたり、PRしたい内容が明確になっているウェブページとなっているのかを助言してもらったりする。
- アンケート機能の活用により、発信した情報に対する返信や反応が得られる。それを基にして改善したり発展させたりすることができる。

【ICT端末の活用についての配慮事項】

- ウェブページの作成において、他者の作成した情報を参考にしたり引用したりする際は、情報の作成者の権利を尊重し、引用した情報であることが分かるように転載し、出典を明記することが必要である。
- ウェブ会議ソフトを活用した話し合いでは、対面で話し合う価値や意義も踏まえながら実施する。

○　活用したソフトや機能：ウェブページ作成、学習支援ソフトのアンケート機能、ウェブ会議ソフト

中学校・第1学年・保健体育科(保健分野)・健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活習慣と健康①

静岡市提供

育成を目指す資質・能力

・健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活習慣と健康について理解すること。【知識】
・健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどと関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うこと。【思考力、判断力、表現力等】
・健康な生活と疾病の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすること。【学びに向かう力、人間性等】

ICT活用のポイント

・科学的な根拠に基づく資料を配付することで、運動、食事、休養及び睡眠について、適切な学習方法を選択することができる。
・適切に資料を選べるようにウェブブラウザのURLを示すことで、多数の資料から調べ学習に必要な資料を容易に検索することができる。
・プレゼンテーションソフトを活用し情報を共有することで、自分と友達の提案を比較するとともに、その関連付けを考え、修正することで最終提案をつくることにつながる。

課題「A先生が健康な生活を送ることができるように改善策を提案しよう」
課題の集約と考えづくり

対話を基に、提案を再検討する

振り返りをする

事例の概要

・大型モニターやICT端末を活用し学習課題や活動の流れを提示することで、対話や考えを再構成する時間を生み出す。
・ A先生の生活習慣のどこに課題があるのかを、表計算ソフトを活用して集約して、課題を焦点化する。
・ウェブブラウザで検索をして資料を選び、科学的な根拠を基に改善策を提案する。
・プレゼンテーションソフトを用いて生活習慣の改善策の提案を作成し、そのスライドを用いて情報交換をすることで、自分の提案を修正する活動を通して考えを深める。

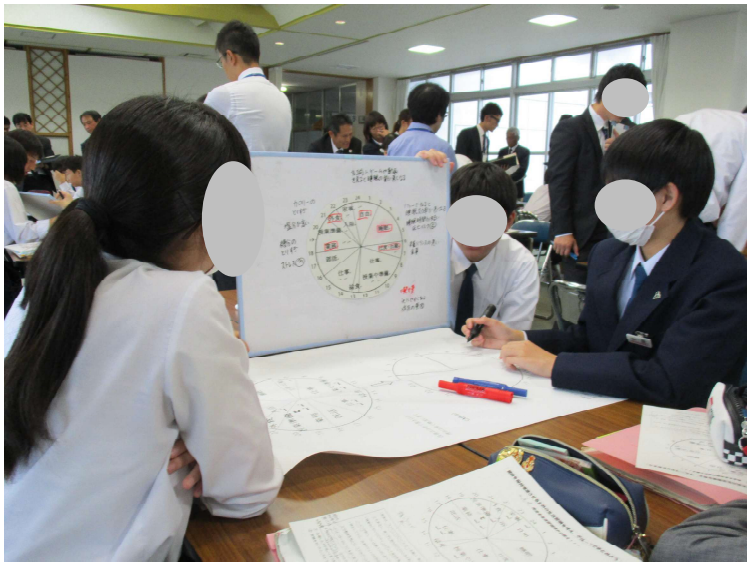
中学校・第1学年・保健体育科(保健分野)・健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活習慣と健康②

【ICT活用の場面①】

【ICT活用の場面①】
・学習課題や活動の流れを大型モニターやICT端末を用いて提示する。

【生徒や教師にとってのICT活用のメリット】
・複数の友達と同時に改善策を共有することができる。
・ ICT端末を用いることで、提示物や資料を拡大して確認したり、自分のペースで確認することができる。
・短時間で学習課題の提示や学習の流れを示すことができ、対話や考えるための時間を生み出すことができる。

【ICT活用の場面②】



【ICT活用の場面②】
・科学的な根拠を基に作成した生活習慣の改善策を伝え合う。
・自分が作成した改善策を、情報交換を基に再構成する。

【生徒や教師にとってのICT活用のメリット】
・作成したスライドを容易に修正しながら自分の最終提案をつくることができる。
・学習の振り返りを文書作成ソフトで蓄積することにより、生徒が考えの変容を見返したり、確認したりすることができる。
・スライドを共有することで、教師は生徒の取組状況を確認することができる。
※写真では、ホワイトボードを活用しているが、ICT端末を活用するとグループ討議や意見の集約・共有を手元で行うことができる。

【活用したソフトや機能】
表計算ソフト　ウェブブラウザ（検索機能）　プレゼンテーションソフト
文書作成ソフト

中学校・第１年・美術科・私のにいがた文様（デザイン）①

育成を目指す資質・能力

附属新潟中学校提供

新潟のよさや特徴を生活で活用する文様にするために、新潟の自然や特産品などの特徴から主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた文様の美しさや配列などを考え、表現の構想を練る。（思考力、判断力、表現力等）

ICT活用のポイント

- 文様のユニットのアイデアを考える場面では、ICT端末を活用することで、大きさや方向を変えたり、形を変えたりするなど、何度もやり直すことができる。
- 文様を複製して、配列を考えながら、数を増やしたり構成したりしながら、文様パターンを試すことができる。
- 発想や構想の後の相互に鑑賞をする際にプレゼンテーションソフトを活用して、容易に提示も説明も行うことができる。

課題設定

発想・構想

制作

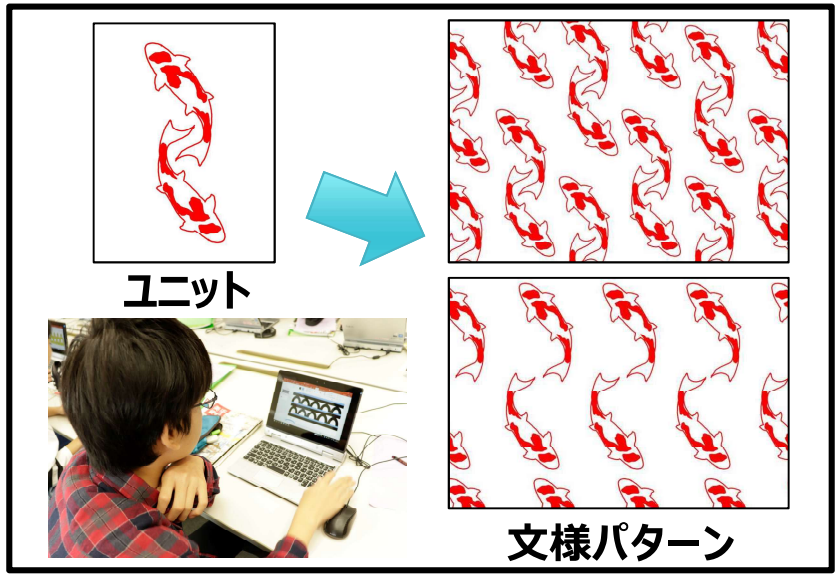
鑑賞

事例の概要

本事例では、新潟のよさや特徴を基に生活で活用する文様について考え、繰り返し連続した文様を組合せオリジナルの「にいがた文様」を作成する。発想や構想をする場面では、まず、プレゼンテーションソフトを活用して、生徒は１枚のスライドに文様の基になるユニットを図形ツールなどを使いながら作成する。次に、そのユニットをコピーし、複製して複数貼り付けたり、整列機能を使って並べたりして連続文様を作成した。その後に、プレゼンテーションソフトのスライド機能を使って、同じユニットで数種類の違うパターンの文様を作成し、表現の違いを見比べながら、より自分の主題に迫れるような作品にするためには、どのようにしたらよいか考えて制作を行った。

中学校・第１年・美術科・私のにいがた文様（デザイン）②

【事例におけるICT活用の場面①制作】



【事例におけるICT活用の場面②検討・交流】

【事例におけるICT活用場面とメリット】

- 本題材では、表現したい主題を設定し，そこから発想を膨らませ、構想を練る段階でICT端末を活用する。一人に一台のICT端末があると，発想や構想に活用する資料を調べることがスムーズにできる。
- 発想や構想する場面では、プレゼンテーションソフトを活用することで、描画に関しても優れた機能が使えるので、図形ツールを組合せたり、線を引いたりするだけでなく、ICT端末で撮影した画像の線画を抽出したり、トリミングしたりして活用することもできる。紙への描画だと失敗を恐れてなかなか筆が進まない生徒も、何度もやり直せるICT端末での描画は、試行活動を繰り返しながら機能を確認し制作に臨んでいる生徒が多かった。また、文様のユニットさえできれば、幾重にもパターンを検討することができることは、デザインの学習において重要である。
- 複数の文様のパターンと、主題を照らし合わせ、より主題に迫った作品になるよう相互に鑑賞しアドバイスをしあった。これにより生徒は、他者の発言から自身の主題について再考し、より主題が伝わる文様を練り上げていった。
- 本題材では、制作はプレゼンテーションソフトで行ったため、振り返りやまとめの場面でも活用した。最終的に作成した段階のスライドを組み合わせ、ポートフォリオのようにすることができる。制作したプレゼンテーションソフトは学校の共有フォルダに保存し、教師も生徒も自由に観られるようにした。それにより、制作過程を把握でき、バックアップも取ることができ、評価にも活用できた。

【活用したソフトや機能】 プレゼンテーションソフト

中学校・第２学年・音楽科・豊かな表現を目指して①

育成を目指す資質・能力

福岡県提供

○ 「花（武島羽衣 作詞、滝廉太郎 作曲）」、のリズム，速度，旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。【思考力，判断力，表現力等】
○ 「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに，創意工夫を生かした表現で「花」を歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付ける。【知識及び技能】
○ 「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに，我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。【主体的に学習に取り組む態度】

ICT活用のポイント

○ ICT端末にヘッドセットを装備し、模範演奏を聴きながら一緒に歌ったり、自分の歌声が思いや意図に合っているか確認したりする。
○ 自分の歌っている様子を録画・視聴することにより、自分のパートの音程や歌う時の表情など、自分の課題を見つけ解決方法を探る。
○ 学習支援システムを用いた交流を行うことで、意見交流の共有性を高める。

学習の流れ

「花」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。

「花」の音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受するとともに，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽表現を創意工夫する。

創意工夫を生かして「花」を歌う

事例の概要

① 学習支援ソフトで課題や資料を配布する。
② ICT端末で「花」の演奏を鑑賞し、知覚・感受したことをスライドに書きこむことで共有する。
③ ICT端末で「花」の模範演奏を聴きながら一緒に歌う。
④ 自分の表現を撮影し、自身のパートの旋律や、表現したいイメージに合っているか確認する。
※ ③、④を往還する
⑤ 撮影した映像をドライブに保存・整理し、ポートフォリオを作成する。
⑥ 楽譜に表現したいイメージ（思いや意図）を書き加える
⑦ 他者と演奏を相互聴取（交流）し、よい点や改善点について意見交流する。
⑧ 自身の以前の演奏と聴き比べ、演奏の変容や学習の過程を振り返る。
⑨ 次時の見通しやめあてを立てる。

中学校・第２学年・音楽科・豊かな表現を目指して②

【事例におけるICT活用の場面①】

【事例におけるICT活用の場面②】

【場面①におけるICT活用のポイント】

学習支援ソフトに配布された課題や資料を確認し、ICT端末で「花」の演奏を鑑賞する。鑑賞を通じて知覚・感受したことを、楽譜ファイルに書き込むとともに、学習支援ソフトで交流することで、意見交流の共有性を高めている。

ヘッドセットを用いて、自身が聴きたい部分を選び、繰り返し鑑賞することができるようにしている。

自分の歌っている様子を撮影し、自身のパートの音程やリズム、表現したいイメージの通りになっているかどうか聴くことを繰り返し行う。自身の表現の振り返りを学習支援ソフトに入力することで、よい点や改善点について、相互交流することができるようにしている。

【場面②におけるICT活用のポイント】

生徒が撮影した演奏（実際の演奏含む）の様子や、書き込んだ楽譜ファイルの記述、ポートフォリオ等の書き込みを基に、教師は自身の表現したいイメージ（思いや意図）に合っているか問う。個別の指導・支援が必要な生徒に対しては、適切なフィードバックを行うことができるようにしている。

【活用したソフトや機能】 学習支援システム，動画撮影

中学校・第2学年・保健体育・器械運動（マット運動）①

育成を目指す資質・能力

（１）知識及び技能
次の運動について，技ができる楽しさや喜びを味わい，器械運動の特性や成り立ち，技の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，技をよりよく行うこと。
ア　マット運動では，回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。
（２）思考力，判断力，表現力等
技などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えること。
（３）学びに向かう力，人間性等
器械運動に積極的に取り組むとともに，よい演技を認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや，健康・安全に気を配ること。

ICT活用のポイント

・ICT端末の活用により、各自が技能の習得状況を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
・撮影した動画を仲間同士で確認して助言したりすることなどを通じて、課題解決に向けた協働的な学びを実現する。

事例の概要

導入

- クラウド上に保存されている前時の自己の動きと模範動画とを対比することで、自己の学習の実現状況及び個別の課題を把握する。

展開

- 個人での課題把握を踏まえ、課題解決に向けた個別最適な学びの充実を図る。
- 課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間の課題や出来映えを伝えるなどのことを通して、協働的な学びの充実を図る。

まとめ

- 前時に撮影した動画と本時に撮影した動画を比較し、自己の変容を確認することで、次時以降の主体的な学びに結び付ける。

授業終了後

- 教師は、クラウド上に保存された生徒の自己評価シートや学習カードなどにコメントを記入するとともに、生徒の記述内容を分析し、次時以降の指導改善に生かす。

中学校・第2学年・保健体育・器械運動（マット運動）②

～ICT端末の写真撮影機能を使い、自己の課題を思考し判断するとともに仲間の課題や出来映えを伝える～

【事例におけるICT活用のポイント①】

【事例におけるICT活用のポイント②】

【事例におけるICT活用のポイント③】

【ICT端末、クラウドの活用のメリット】

【生徒の支援】

- 授業導入時にクラウドに保存されている前時までの自己の動きを確認し、各自が課題を把握した上で個別の課題設定に応じた練習方法や練習の場を選択して活動する。
- 同じ課題を持つ仲間同士で技を行う様子を撮影し、模範動画の動きと仲間の動きを比較しながら、仲間の課題や出来映えを伝える。
- 前時に撮影した動画と、本時の展開の場面で撮影した動画を比較し、本時の目標の達成状況を確認するとともに動画をクラウドに保存する。
- クラウド内に保存されている自己評価シートや学習カードなどのファイルを開き、振り返ったことを記入し、データを保存する。

【教師の支援】

- 教師が生徒の自己評価シートや学習カードの内容を一覧にして確認したり、コメントを記入したりすることで、業務の効率化を図る。
- 「大量の文章データから有益な情報を取り出すソフト」などを活用し、クラウドに保存された生徒の自己評価シートや学習カードの記述内容から、教師が生徒の目標の達成状況や課題を考察し、授業改善に生かす。

【活用したソフトや機能】 写真撮影機能、テキストマイニング（文章解析ソフト）

中学校・第２学年・道徳科・主題名「他から謙虚に学ぶ姿勢」
内容項目：B　相互理解・寛容①

➢育成を目指す資質・能力

　よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

➢ICT活用のポイント

　ICT端末を活用することで，道徳科の学習において求められる，**生徒一人一人の感じ方や考え方をこれまで以上に生かすことが可能となり**，生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり，物事や道徳的価値を多面的・多角的に考えたり，自分の問題として受け止め深く自己を見つめたりするなどの学習につなげられる。

導　入

展　開

終　末

➢事例の概要〈多面的・多角的に考える〉

①自分が登場人物の立場だったらどのような気持ちになるかを心情メーターで表す。

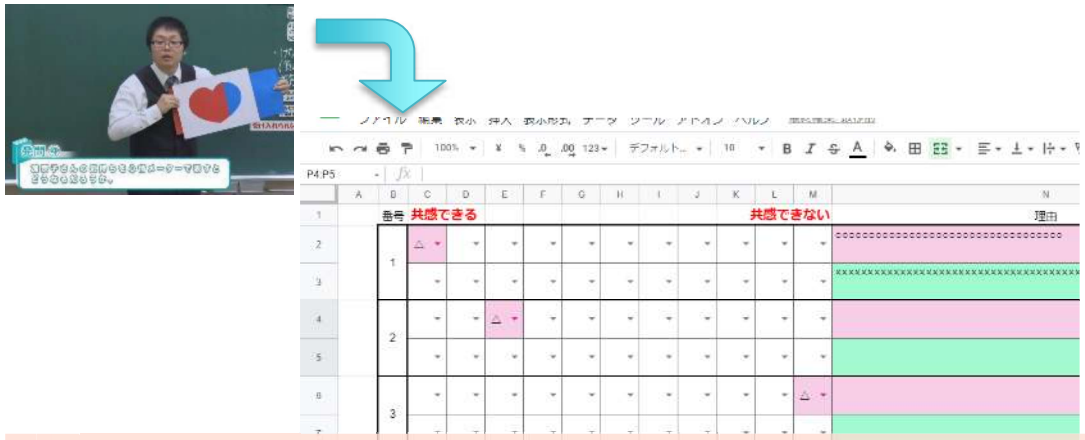
②異なる立場の生徒を代表させたパネルディスカッションを行う。

③パネルディスカッション後，改めて心情メーターで自身の気持ちを表す。

④周囲の生徒とパネルディスカッション後の気持ちの変化について意見交流を行う。

中学校・第２学年・道徳科・主題名「他から謙虚に学ぶ姿勢」
内容項目：B　相互理解・寛容②

【事例におけるICT活用場面①】



※写真は，道徳教育アーカイブの授業映像より
※ICT端末を活用することで，道徳科の目標に示される学習活動をより一層充実させることが可能となります。

・表計算ソフトなどで作成した心情メーターを共有し，生徒に自身の気持ちの位置と理由を入力をさせる。

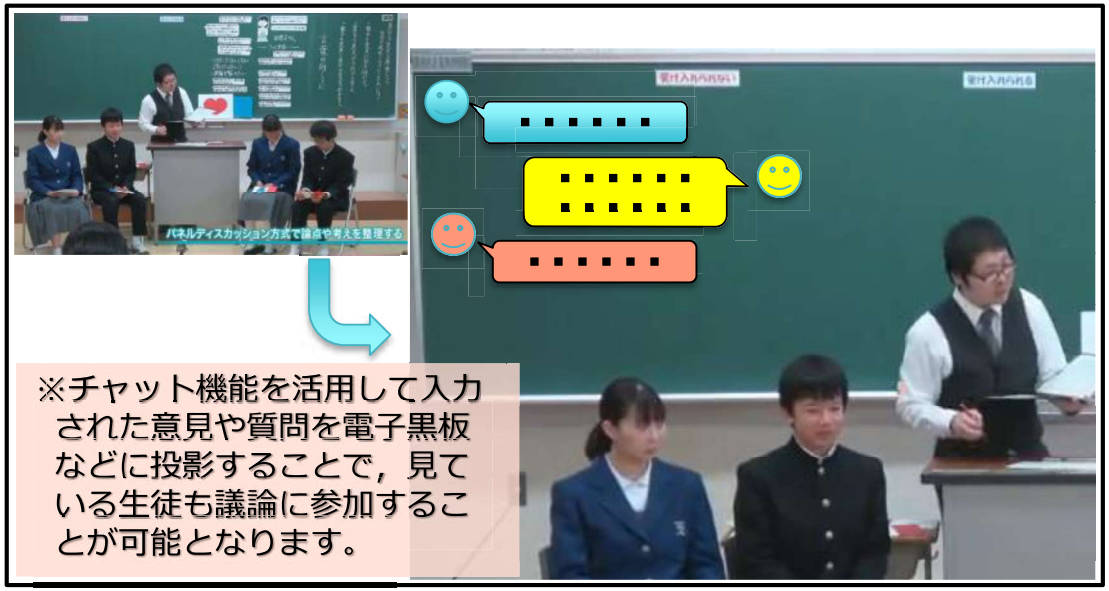
〈ＩＣＴ端末活用のメリット〉

○全生徒の状況を短時間で，教師も生徒も把握することができる。

→より多くの多様な感じ方や考えを知ることが可能となり，比較したり，分類したり，疑問点について話し合ったりするなどの学習活動を充実させることにつなげられる。

○　活用したソフトや機能：表計算ソフト，学習支援ソフトのファイル共有機能

【事例におけるICT活用場面②】



※チャット機能を活用して入力された意見や質問を電子黒板などに投影することで，見ている生徒も議論に参加することが可能となります。

・チャット機能を活用し，パネルディスカッション中に質問などを入力させる。

〈ＩＣＴ端末活用のメリット〉

○代表生徒だけでなく，口頭による発表が得意でない生徒も含め，より多くの生徒の考えを把握することができる。

→代表生徒の感じ方や考え方を踏まえ，他の生徒の考え方もパネルディスカッションに反映させることが容易となり，多くの生徒が参加して議論を深めることにつなげられる。

○　活用したソフトや機能：学習支援ソフトのチャット機能

中学校・第２学年・道徳科・主題名「他から謙虚に学ぶ姿勢」
内容項目：B　相互理解・寛容①

➢育成を目指す資質・能力

　よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

➢ICT活用のポイント

　授業後にアンケートを行う場合，これまでは，その場で全体の状況を把握することができなかったが，ICTを活用することで，授業中に行うアンケートでもその場で結果を確認することが可能となる。

導　入

展　開

終　末

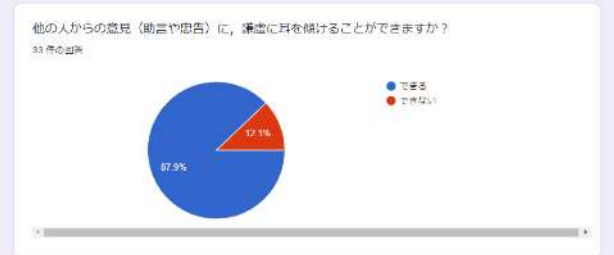
➢事例の概要〈授業前後の気持ちや考え方の変化を整理する〉

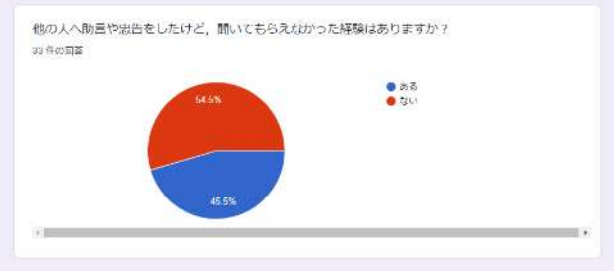
①ねらいに含まれる道徳的価値に関わるアンケートを行う。
②アンケート結果から，道徳的価値に関わる実態や問題をつかむ。
③授業後に，導入段階で実施した同じアンケートを行う。

中学校・第２学年・道徳科・主題名「他から謙虚に学ぶ姿勢」
内容項目：B　相互理解・寛容②

【事例におけるICT活用場面】

※従来は，事後のアンケート結果をその場で確認することは難しかったが，アンケート機能を使えば容易となります。





・アンケート機能を活用して，アンケートに回答させる。

〈ＩＣＴ端末活用のメリット〉

○これまでは，授業後にアンケートをとっても，その結果をすぐに確認することはできなかったが，アンケート機能を活用することで，その場で生徒の状況を確認することができる。

→終末段階で導入段階と同じアンケートを実施し，その場で回答状況を確認することができる。授業後の結果を踏まえ学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり，学んだことを更に深く心にとどめたり，これからへの思いや課題について考えたりする学習活動につなげられる。

○　活用したソフトや機能：アンケート機能

中学校・第３学年・国語科・「Ｂ書くこと」（推敲）①

育成を目指す資質・能力（主たる指導事項）

第３学年「Ｂ書くこと」
　エ　目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて，文章全体を整えること。

ICT活用のポイント

文書作成ソフトを使って文章を書くことで，
①コメント機能を用いて助言し合ったり，助言に対する自分の考えを書き留めたりすることができる。
②校閲機能を用いて推敲することができる。
③教師は，①②の履歴を確認することで，適切な評価を行うことができる。

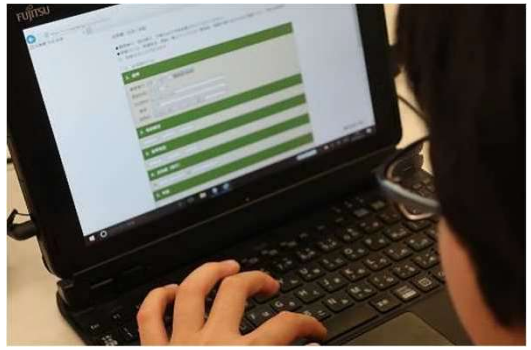
「Ｂ書くこと」の学習過程

題材の設定
情報の収集
内容の検討
構成の検討
考えの形成
記述
推敲
共有

主たる学習活動

単元「関心のある事柄について投書を書く　～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」（第３学年・４時間）

- 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め，自分の意見と根拠を整理する。
- 文章作成ソフトで下書きを入力する。
- グループで下書きを読み合い，分かりにくい部分等についてコメント機能を用いて確認し合う。
- 投書にふさわしい表現について考える。
- 読み手の立場に立って自分の下書きを読み，目的や意図に応じた表現になっているかを確かめる。
- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲する。
- 希望者は，清書したデータを投稿する。



←投稿の準備を進める生徒

（単元終了時）
コメントや校閲機能による修正の跡が残っているデータを教師に提出。

（参考）「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校　国語】事例２pp.50-57

中学校・第３学年・国語科・「Ｂ書くこと」（推敲）②

【事例におけるICT活用の場面①-1】

【生徒Ｐがコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔を返してくれた。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉を教えてもらったことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

コメント【P1】：いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】：誰の言葉？（山田）

コメント【P3】：誰から？（佐藤）

コメント【P4】：誰から教えてもらったのかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。
先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

検討後，推敲

【事例におけるICT活用の場面①-2】

【生徒Ｐがコメントを書き込んだ下書きの例】

~~テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。~~

先日、下校時にうれしいことがあった。

自分のコメント【P1】を踏まえ，削除。

自分のコメント【P1】を踏まえ，追加。

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。「一生道を譲り続けたとしても、そのても合計は百歩にも満たない。」ならないという中国の古典の言葉を学校の先生から教えてもらったことがある。ちょっと道を譲ったとしても大きな損はないと思えば、心にゆとり生まれるはずだ。

友達からのコメント【P3，4】を踏まえ，修正。

コメント【P1】：いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が体験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】：誰の言葉？（山田）

コメント【P3】：誰から？（佐藤）

コメント【P4】：誰から教えてもらったのかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。
先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。

【コメント機能の使用例と活用のポイント等】

- 下書きを交流し，生徒Ｐの文章について友達が気付いた点等を入力する（要記名）。
- 下書きを読み直し，自分（生徒Ｐ）が気付いた点を入力する。
- 入力してくれた友達のコメントを読んで，更に気付いた点等を自分（生徒Ｐ）で入力する。

➢ 互いに助言し合うことに有効。その際，記名させることで，以下の場面で特に有効。
- コメントの意図を尋ねたり，よりよい表現を互いに助言し合ったりする場面
- 教師が生徒の学習の状況を把握する場面

➢ 友達への助言に活用するだけではなく，例えば，以下の点を考えさせて書き留めさせることが有効。
- 助言に対する自分の考え
- 自分の文章を読み返して考えたこと（よい点や改善点）

→コメントを付すことが自分の文章を客観的に読むことにつながる。

➢ 教師も生徒とともに助言したり，回収後のフィードバックに活用したりすることにも有効。

→授業中に十分指導できなかった生徒等への対応が可能。

【活用したソフトや機能】 文章作成ソフト

中学校・第３学年・音楽科／場面のイメージを表す音楽をつくろう①

育成を目指す資質・能力

音のつながり方の特徴を表したいイメージと関わらせて理解するとともに，課題や条件に沿った音を組み合わせる技能を身に付けながら，まとまりのある創作表現を創意工夫し，創作に親しむ。

ICT活用のポイント

・色分けされた音の配列を手がかりに，音の連ね方の違いによる特質や雰囲気の変化を捉える。
・つくった音楽を聴きながら，イメージした音楽になっているかを実際の音で確認する。
・ペアやグループで発表し合い，感想やアドバイスを参考に修正したり工夫を重ねたりする。
・修正や工夫の前後を比較して，その効果を確認する。

つくりたい音楽のイメージをもつ

音の連ね方を様々に試す

ペアやグループで発表し合う

修正したり工夫を重ねたりする

事例の概要

①家庭科の授業で作成した紙芝居をもとに，音楽をつける場面を選択し，どのような音楽をつくりたいかイメージをもつ。

②音楽制作ソフトを用いて，イメージに合った旋律をつくる。
・色分けされた音の配列を手がかりに，音の連ね方を様々に試す。
・つくった音楽を保存し，それを再生して，特質や雰囲気を感じ取る。

③つくった音楽をペアやグループで発表し合う。
・互いの作品のよいところやさらに工夫ができそうなところを伝え合う。

④友達の感想やアドバイスを参考に，修正したり工夫を重ねたりして，よりよい作品へと仕上げていく。

中学校・第３学年・音楽科／場面のイメージを表す音楽をつくろう②

【事例におけるICT活用の場面①】

色分けされた音の配列を手がかりに，音の連ね方を様々に試す場面

◎ICT端末を活用することによって…

◆楽譜に書いて記録する必要がないため，即興的に音の連ね方を試す時間を多く確保できる。

◆つくった音楽を保存し，それを再生することのよって，つくった音楽をその場で音で確認することができる。

【事例におけるICT活用の場面②】

ペアやグループでつくった音楽を発表し合い，感想やアドバイスを伝え合う場面

◎ICT端末を活用することによって…

◆つくった音楽を発表する際に，演奏の練習をする必要がないため，創作表現を創意工夫することに集中できる。

◆感想やアドバイスを参考に，修正したり工夫を重ねたりすることが比較的容易にできる。

◆修正や工夫の前後を比較して，その効果を確認することができる。

○　活用したソフトや機能：SONG MAKER（音楽制作ソフト）

高等学校・外国語科・ディベート活動①

活動のねらい

身近な話題についてのディベートを通して、自分の考えを広げ、課題の解決に向けて考えを生かし合うために、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを理由や根拠とともに話して伝え合うことができる。

ICT活用のポイント

・教師とALTによるディベート動画を共有フォルダに保存することで、何度でも見ることができ、伝え合うポイントを理解することができる。
・デジタルホワイトボードソフトの付箋機能を使うことで、論点の整理や主張のまとめを効率的に行うことができる。
・文書作成ソフトの共同編集機能を使うことで、個別に収集した情報や資料をもとに、協働で自分たちの意見や主張の正当性を高めることができる。

【第１時】

導入・ねらい（目標）の提示

デジタルホワイトボードソフトで論点整理

文書作成ソフトの共同編集機能で原稿作成

グループのメンバーや教師からのフィードバック

【第２時】

ディベート（録画・振り返り・評価）

事例の概要

○ディベートを動画で示し、ねらい（目標）を確認する

事前に撮影した教師とALTによるディベート動画を授業で見せるとともに、その後も必要に応じて視聴できるよう、学習支援ソフトの共有フォルダに保存する。

○賛成または反対のグループ内で論点整理を行う

デジタルホワイトボードソフトの付箋機能を使って、課題に対する論点をグループ内で整理し、意見や主張を整理する（個別作業⇒協働作業）。

○アウトラインや原稿を作成する

文書作成ソフトを使用して個人で立論し、グループのメンバーによるコメントや教師からのフィードバックを参考に、根拠の質と量を高める。また、それを基に、グループで共同編集を行いながら立論していく（個別作業⇒協働作業）。

○ディベートを録画し、振り返りや評価に活用する

各ディベートを録画し、活動のねらいについての自己評価や相互評価に活用する。必要に応じて、教師は評価資料として活用することもできる。

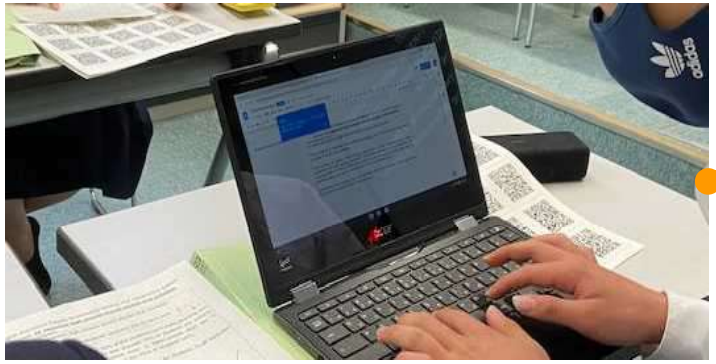
高等学校・外国語科・ディベート活動②

～ICT端末を使った個別・協働による論点整理や立論の作成～

【教師とALTによるディベート動画を視聴している場面】

【論点整理をしている場面】

【意見や主張の正当性を協働で高めている場面】



「○○は廃止すべきか」という論題で賛成と反対の立場に分かれて、**聞いたり読んだりしたことを活用しながら**、意見や主張などを**理由や根拠とともに**話して伝え合う活動

【ICT活用の具体】

導入で視聴させた教師とALTのディベートの動画を、学習支援ソフトの共有フォルダに保存する。

→必要に応じて生徒個人が繰り返し視聴し、発話の工夫（伝わりやすい発音や音量、速さや発言時の態度など）について理解を深めることができる。

デジタルホワイトボードソフトの付箋機能を使って、論点の整理や主張のまとめを行う。

→紙の付箋よりも効率的に行うことができるとともに、この後個別で立案する際に対話の過程を適宜各自で振り返ることができる。

インターネット等を活用しながら個別に収集した情報や資料をもとに、文書作成ソフトを用いて立論し、それを基に共同編集機能を用いてコメントし合う。

→ネットワーク環境で端末を活用することで、協働でグループの意見や主張の正当性を高めることができる。

○ 活用したソフトや機能

学習支援ソフトのファイル共有機能、文書作成ソフトの共同編集機能、デジタルホワイトボードソフトの付箋機能、動画撮影機能

高等学校・入学年次・保健体育・器械運動（マット運動）①

育成を目指す資質・能力

（１）知識及び技能
次の運動について，技ができる楽しさや喜びを味わい，技の名称や行い方，運動観察の方法，体力の高め方などを理解するとともに，自己に適した技で演技すること。
ア　マット運動では，回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。
（２）思考力，判断力，表現力等
技などの自己や仲間の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えること。
（３）学びに向かう力，人間性等
器械運動に自主的に取り組むとともに，よい演技を讃えようとすること，互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，健康・安全を確保すること。

ICT活用のポイント

・ICT端末の活用により、各自が技能の習得状況を的確に把握することで個別最適な学びにつなげる。
・撮影した動画を仲間同士で確認して助言したりすることなどを通じて、課題解決に向けた協働的な学びを実現する。

事例の概要

導入

- クラウド上に保存されている前時の自己の動きと模範動画とを対比することで、自己の学習の実現状況及び個別の課題を把握する。

展開

- 個人での課題把握を踏まえ、課題解決に向けた個別最適な学びの充実を図る。
- 課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間の課題や出来映えを伝えるなどのことを通して、協働的な学びの充実を図る。

まとめ

- 前時に撮影した動画と本時に撮影した動画を比較し、自己の変容を確認することで、次時以降の主体的な学びに結び付ける。

授業終了後

- 教師は、クラウド上に保存された生徒の自己評価シートや学習カードなどにコメントを記入するとともに、生徒の記述内容を分析し、次時以降の指導改善に生かす。

高等学校・入学年次・保健体育・器械運動（マット運動）②

～ICT端末の動画撮影機能を使い、自己の課題を思考し判断するとともに仲間の課題や出来映えを伝える～

【事例におけるICT活用のポイント①】

【事例におけるICT活用のポイント②】

【事例におけるICT活用のポイント③】

【ICT端末、クラウドの活用のメリット】

【生徒の支援】

- 授業導入時にクラウドに保存されている前時までの自己の動きを確認し、各自が課題を把握した上で個別の課題設定に応じた練習方法や練習の場を選択して活動する。
- 同じ課題を持つ仲間同士で技を行う様子を撮影し、模範動画の動きと仲間の動きを比較しながら、仲間の課題や出来映えを伝える。
- 前時に撮影した動画と、本時の展開の場面で撮影した動画を比較し、本時の目標の達成状況を確認するとともに動画をクラウドに保存する。
- クラウド内に保存されている自己評価シートや学習カードなどのファイルを開き、振り返ったことを記入し、データを保存する。

【教師の支援】

- 教師が生徒の自己評価シートや学習カードの内容を一覧にして確認したり、コメントを記入したりすることで、業務の効率化を図る。
- 「大量の文章データから有益な情報を取り出すソフト」などを活用し、クラウドに保存された生徒の自己評価シートや学習カードの記述内容から、教師が生徒の目標の達成状況や課題を考察し、授業改善に生かす。

【活用したソフトや機能】 動画撮影機能、テキストマイニング（文章解析ソフト）

高等学校家庭科【家庭基礎】 内容「生活の自立及び消費と環境」
単元名「消費生活と生涯を見通した経済の計画」

単元の目標

消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができる。

生活の課題発見
↓
解決方法の検討と計画
↓
課題解決に向けた実践活動
↓
実践活動の評価・改善

ICT活用のポイント

- ■ 作業負担の少ない結果収集、分析　→学習意欲の喚起
- ■ 教材の一斉送信・共有　→ 演習時間の確保
- ■ 生活に関わる様々な情報の収集・活用・吟味　→学習意欲の喚起
- ■ 情報共有による他者との相互作用　→ 学びの深化

事例の概要

- ■ 本時の目標は、「毎日の暮らしにおける生活の収入と支出のバランスについて理解し、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えよう」である。
- ■ 表計算ソフトを用いて、自分が望む消費スタイルとのギャップを埋めるために条件を変えながら食費や住居費等の生活費を入力させることで、経済の管理や計画を自分事として捉えさせることができる。
- ■ 演習中に重視した点や悩んだ点などを文書作成ソフト等で整理してクラウド上に置くことで、他者と多様な考えを効率的に共有し、他者との相互作用によって視野を広げることができる。

高等学校家庭科【家庭基礎】 内容「生活の自立及び消費と環境」
単元名「消費生活と生涯を見通した経済の計画」①

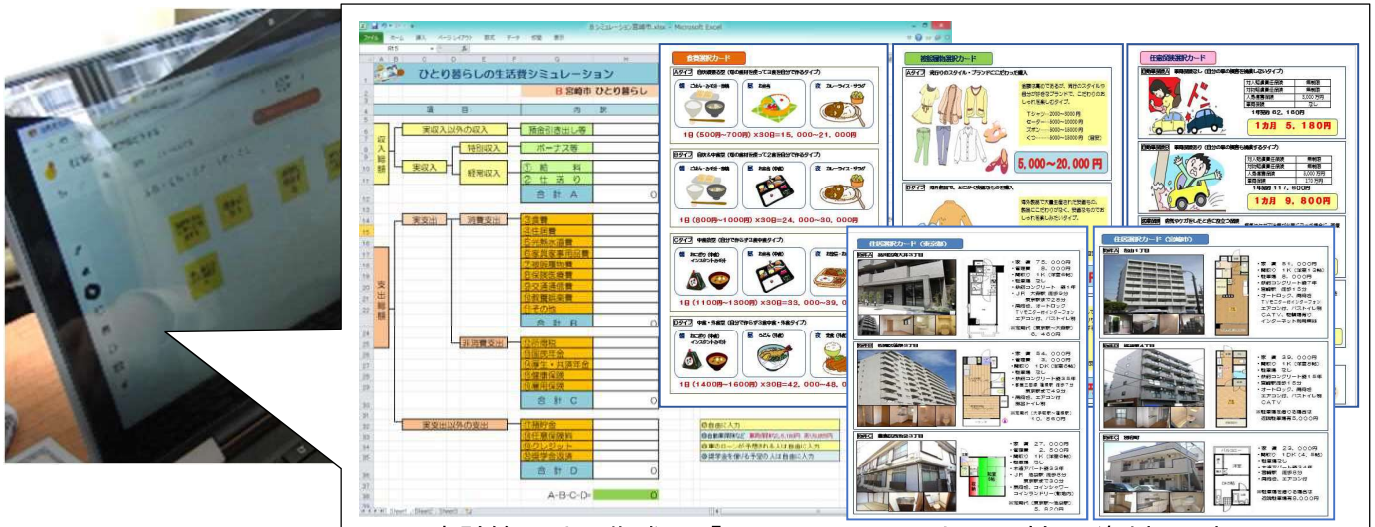
【作業負担の少ない結果収集、分析とグラフ化】

■ 家庭科では、生徒に当事者意識をもたせるために、アンケート調査等を行うことがある。

【ICTを活用するメリット】

紙ではなくデジタルでのアンケートを実施することで、生徒全員が回答を終えた直後に、自動でグラフ化された結果を確認させることができ、生徒の学習意欲の喚起にもつながる。また、教師がアンケートを集計する手間も省くことができます。この機能は、授業終末に実施する小テストの自動採点や振り返りシートの集約にも活用できる。

【教材の同時一斉送信・共有】



※表計算ソフトで作成した「シミュレーションシート」と配付した資料の一部

■ 家庭科では、生徒の学習意欲の喚起や、思考の深化を促すために、複数の補助資料を配付することがある。

【ICTを活用するメリット】

教師用端末から生徒の端末に教材を一斉送信・共有することで教材配付の時間が短縮され、説明や生徒の演習時間を十分に確保することができる。

【活用したソフトや機能】 表計算ソフト、文書作成ソフト、アンケート機能

高等学校家庭科【家庭基礎】 内容「生活の自立及び消費と環境」
単元名「消費生活と生涯を見通した経済の計画」②

【個々のペースで情報の収集・活用・吟味】

■ 前時までの学習プリントやレポート課題、補助資料等を活用し、個々のペースで条件を変更して試行錯誤を繰り返しながら、本時の目標達成に向けて演習に取り組んでいる。

【ICTを活用するメリット】

一人一台の環境があり、誰もが自分の端末で資料を見られるからこそ、自分に合ったペースで学習を進めたり、理解を深めたりすることが可能となる。

【同時閲覧】

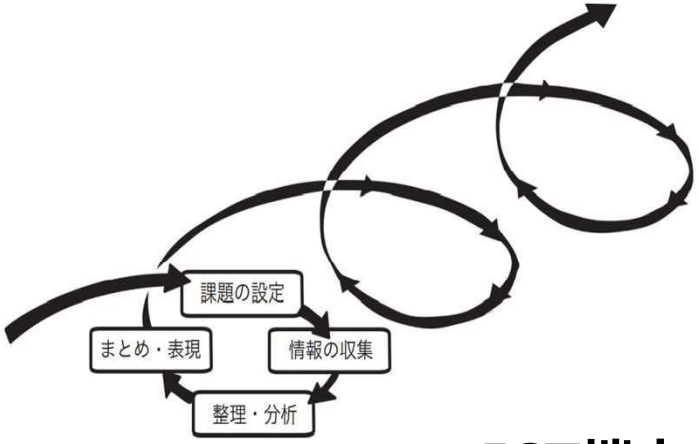
■ 家庭科では、他者とかかわりながら多様な生活の営みや価値観に触れる中で、自分の生活をさまざまな角度から捉え直し、生活についての理解を深める。

【ICTを活用するメリット】

一人一台の端末を使って個々に作成した資料をクラス全体で同時に閲覧し、自己と他者の考え方の差異や共通性を確認し合う「他者との相互作用」により、学びを深めることができる。

【活用したソフトや機能】 表計算ソフト、文書作成ソフト、アンケート機能

高等学校・第３学年・総合的な探究の時間・「町民の健康寿命を延ばそう」①



活動のねらい【個と集団の学びの深まり】

高齢者の健康寿命を延ばそうと考え、第1回健康教室を実施した。その後、当日のアンケートやインタビューの他に、1週間後の様子など、ウェブ会議ソフトで調査したことを基にグループで協議し、自分たちの考えた健康教室の取組を評価し改善案を考えられるようにする。

高齢者の健康寿命を延ばそう。

先行研究やアンケート調査で情報収集する。

調査結果を整理・分析する。

第2回健康教室を実施する。

ICT端末の活用のポイント

多様な情報、多量な情報、最新の情報、加工しやすい情報を、いつでも、どこでも、素早く、手軽に調査し収集することが可能

インターネット検索、電子メールによる質問、ウェブ会議ソフトを活用した取材などを通して情報を収集していくことが考えられる。

その際、収集した多様で多量の情報をクラウド上に適切に整理・保存して、蓄積した情報の取り出しや共有が必要に応じて簡便に行えるように配慮する。

事例の概要

本事例は、第１回健康教室を実施したことによる、高齢者の健康に対する意識の変化について情報を収集する。ウェブ会議ソフトを活用したインタビューとアンケート機能を併用することで、主観的で感覚的な情報と、数値化された客観的な情報を幅広く多様に収集する。これらの情報を個別フォルダに蓄積しながらも、グループでも共有することで、いつでも、どこでも、繰り返し、瞬時に確認することができるようにする。

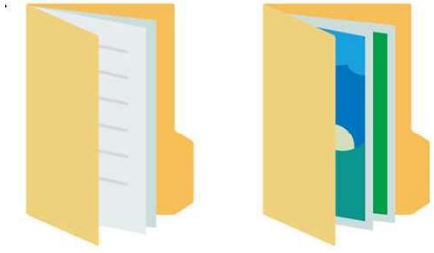
高等学校・第３学年・総合的な探究の時間・「町民の健康寿命を延ばそう」②

～ICT端末を使って、多量で多様な情報を収集する～

【オンライン・インタビュー】

【アンケート機能の活用】

【共有フォルダの活用】



【ICT端末の活用のメリット】

- 健康教室の1週間後にウェブ会議ソフトを活用し，高齢者の方と健康トレーニングの取組状況についてインタビューすることで、「食事がおいしくなった」「ぐっすり寝られるようになった」などの主観的で感覚的な情報を遠隔地でも誰でも収集できる。
- 健康教室当日・1週間後におけるアンケートは、学習支援ソフトのアンケート機能を活用することで、健康トレーニングの時間や回数などの数値化した情報を簡便に収集できる。
- 言語化した情報、数値化した情報を個別の蓄積を基本としながら、グループによる共有フォルダの活用による蓄積方法も用いることで、より多様で多量な情報を収集できる。

【ICT端末の活用についての配慮事項】

- 情報収集の方法は、目的や場面に応じて適切に選択・判断できるようにする。例えば，相手方のICT環境（カメラ機能や通信環境など）を確認する。
- 収集した情報を適切な方法で蓄積するために、収集した場所や相手、期日などを明示する。
- 通信状況などによる接続できない場合の対応方法やプライバシーの保護などにおけるオンライン上のコミュニケーションについて事前指導する。
- 実際に訪問し、見学や体験をしたりインタビューしたりすることなども積極的に行う。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフト（ファイル共有機能、コメント機能）、ウェブ会議ソフト